

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092200140		
法人名	株式会社 雄清		
事業所名(ユニット名)	グループホーム なかはや		
所在地	和歌山県田辺市中芳養917-7		
自己評価作成日	平成25年3月7日	評価結果市町村受理日	平成25年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	平成25年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の周辺には、梅林が多く自然に囲まれた静かな所にあります。入居者様の馴染の場所への外出、買い物、催し事、季節の行事に自由に参加している。受診希望、入浴希望、飲酒希望など本人に添うように心掛けている。食事のメニューが豊富でおいしい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設間もないグループホームであるが、管理者が地域の中において様々な役割を担ってきた事もあり、地域の理解を得ている。地域の方々に見守って頂きながら利用者はそれぞれ自由に周辺を散策しのびのびと過ごしている。また、地区の会館に於いて地域住民を対象とした認知症についての学習会を予定しており、より多くの地域住民の理解を得られるようにと積極的に取り組む姿勢が窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示して、いつも見るようにしている。	利用者が個人の威厳を保持しつつ自立した生活を営むことができるように努めるという理念を掲げており、管理者・職員共に機会ある毎に理念の共有を図り実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の餅まき、幼稚園のお遊戯会や小学校の運動会に参加している。	事業所は地域の一員として、近隣の餅まきや幼稚園の発表会、小学校の運動会等の行事に参加し、地域の人々との交流の機会を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人に「認知症」という病気を理解してもらえるよう、講演を予定している。地域の方(町内会、敬老会)の人たちを施設に招待している。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。地域の方にも参加していただき、施設の現状、サービス内容など話し合いをして、意見をいただいている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、施設の現状やサービスの内容等について話し合っている。最初の2回は利用者家族の参加も得られていたが、現在は行政職員と地区代表等になっており、参加を勧めていない。	利用者家族の意見や要望を聞くと共に事業所の取り組み内容についての理解を得る良い機会でもあるので、参加を勧める事が望まれる。また、運営推進会議の協議内容についてもさらに工夫され、より意義ある会議運営を進められる事を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的には行えていないが、運営推進会議に参加していただいている市の職員の方には報告、相談をして協力関係を築いている。	運営推進会議には行政職員の参加を得ている他、日常的にも事業所の取り組みの報告や相談等が行える関係ができています。また、協力を得てサービスの質の向上に取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。職員には、身体拘束の勉強会を行い、利用者本位の介護を心掛けている。	管理者・職員共に身体拘束をしないケアの実践について理解している。また、鍵をかける事の弊害を十分に理解し、日中は玄関を開けており、自由に入出入りできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、身体虐待はもちろん精神的虐待も行わないように努めている。また、職員のストレスが溜まらないよう勤務時間等考えている。	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全員が理解できるよう学習する機会を多く持つように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学をしてもらい、疑問、不安など丁寧に聞き取りをしている。納得いただき契約時には説明を十分行い、同意をいただいた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日常の会話等から、意見、要望をいただいている。	利用者の意見は日常の会話等から聞くように努めている。また、家族には面会に来られた時に報告しながら要望や意見等を聞く様にしており、それらの意見等は運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議や、常日頃から意見を聞いて反映させている。	月1回の定例会議では職員の意見や提案を聞き、環境整備等の改善に努めている。開設後1年を経過した事から、管理者は職員と個別面談を行い次年度に向けた職員自身の目標や要望を尋ねる機会を設けた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況の把握に努め、経験、能力、資格など考慮して賃金水準を下げないよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加し、個々のスキルアップに努めている。各職員に合った研修に参加し、研修後は報告をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流の機会は少ないため、勉強会、研修等への参加などで、他の職員との交流ができるよう努力が必要である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っていること不安、要望等を聴いて本人支援を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを受けるまでの経緯や困っていること、不安なことなど丁寧に聞き取りをして、安心していただけるよう より良い信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時には、必要と思われる支援を提案し、他のサービスとの組み合わせなど選択肢を広げて本人、家族に何が必要か対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、一人一人に合わせた接し方を心掛け、職員も共に過ごす者同士(家族)の一人として関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子や経過など家族と連絡、相談しながら共に支援できる関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が以前から利用している美容院や行きつけの場所へ買い物に出かけるなど支援を行っている。	利用者の行きつけの美容院へ行ったり自宅近くのスーパーへ買い物に行ったり等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が楽しく過ごせるよう、利用者の気持ち、性格を考えて職員がかかわり、孤立することの無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が亡くなり、サービスが終了になることはあるが、退所される方は少なく、入院等やむを得ず契約終了の場合、お見舞いに伺うなど関係を続ける努力をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いに添うように努め、出来るだけ本人本位を基本として行っているが、時と場合によっては、家族の意見を重視することがある。	一人一人の思いや暮らし方の希望、意向を把握する為にセンター方式のシートを活用しており、日常の会話等から聞き出せるように努め、月1回のミーティングの中で職員全員の意見を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報を収集してファイル化し、ケアマネージャーからの情報も合せて職員全員で共有、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態の把握に努め、残存機能を活かしながら個々にあった過ごし方をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回ミーティングを行い、利用者の状況を出し合い、意見を反映させた介護計画を作成している。	本人の希望や意向を尊重し、関係者の意見等も取り入れ十分に話し合いを行った上で介護計画を作成している。月1回のミーティングでは利用者一人ひとりの状況を確認し見直しの必要性を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の個別記録に、かかわった職員が必ず記入し、職員がそれぞれ目を通し、情報を共有し実践、介護計画に活かす努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化や、その時のニーズに対応できるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学校行事、公民館、神社、お寺の行事ごとに参加したり、見学するなど豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるよう医療機関と連携し、本人および家族の希望によりかかりつけ医での受診をしている。	受診は本人及び家族の意向を重視し、以前からかかっている病院や専門科への受診を支援している。また、連携医の往診も受けており適切な医療を受けられる状況である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とのかかわりは少ないが、施設の看護師と協働し、報告、相談、指示を受けながら、個々の利用者が適切な受診、看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療を受けられるよう、看護師、ケアマネージャーが医療機関との連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の利用者の経過、方向性について家族と話し合いを行い、事業所として出来ることを十分に説明しながら、看護師を中心に支援に努めている。	開設間もない事もあり、直ぐに重度化が予想される状態の利用者は少ないが、契約時等に先々の事について相談を受けた事がある。	事業所としての看取り等についての方針を明確にし、家族と共に重度化した場合の方向性等について話し合いの機会を持てるよう取り組みが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応の訓練は定期的に行っていないが、勉強会の開催を検討し、事務所内にマニュアルを設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	具体的なマニュアルを作成。消防設備の確認と避難訓練の実施を検討している。	消防署の指導の下、消火訓練を実施している。また、職員でマニュアルを作成している。なお、具体的な誘導などの対応方法についてのマニュアルを作成するため、会議で話し合い職員全員がレポートを提出する事になっている。新マニュアルの下での避難訓練を予定している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重した対応や、言葉使いに注意した声掛けをするよう努めている。不適切な場合はその都度注意をしながら対応している。	職員は利用者の誇りやプライバシーを損ねる事が無いように十分に配慮した言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や支援してほしいことを、話しやすい雰囲気作りを施設全体で取り組み、自己決定に結び付けるよう努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合ではなく利用者優先で、出来るだけ一人一人のペースに合わせ、利用者の希望に添うよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合う服装を心掛け、外出の際は身だしなみを整え支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりの準備、簡単な食材の下ごしらえ、食後の食器洗いなど、職員と一緒にしている。利用者の好みに合わせたメニュー作りをしている。	食事が楽しみなものになるよう、利用者の好み等に配慮したメニューを作っている。また、職員と一緒に下ごしらえやおしぼりなどの準備を行い、ドーナツやクッキーなどのおやつ作りも楽しみなものとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスや品数を考えた献立づくり、食事量に配慮している。水分量が把握できるよう記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	拒否される場合難しい面もあるが、毎食後の歯磨きは必ず行っている。口腔の状態によっては職員がケアする場合もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで行えるよう、声掛け誘導をしている。一人一人のパターンでおむつの除去の努力をしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄が出来るように対応している。数名の利用者がオムツからリハビリパンツに、リハビリパンツからパンツにと改善される等、自立に向けた取り組みが行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事面での工夫をし、ヨーグルト、バナナ等を提供し、便秘予防に心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	強制的ではないが、ある程度の時間設定はあるが、本人の希望に出来るだけ添うように、リラックスして気持ちよく入浴できるよう支援している。	一人ひとりのタイミングを見はからって入浴を勧めており、朝風呂や就寝前の入浴など希望に添って対応している。また、自宅と同じように一人でゆっくり入りたいという希望もあり、ドアの外で見守る等、個々にそった支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々に応じて、居室やリビングで日中は過ごし、夜間は入眠状態の確認を行い、眠れていない場合は少し雑談するなどリラックスできるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用を含めすべてにおいて理解できていない部分はあるが、一人一人の使用目的を踏まえて、慎重に支援に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かし、利用者の楽しみ事を増やせる支援が出来るよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ本人の希望に添って外出したり、買い物に出かけるなどの支援を行っている。時には外出を好まない方もいるが、近所の散歩に出かけたり、玄関先で日向ぼっこをするなど支援している。	その時々希望に添って日常的に戸外に出かけられるように支援している。数名の利用者は一人で散歩にも出かけている。着いて来て貰いたくないと言われる利用者には遠くからそれとなく見守り所在を確認している。また、玄関先に長椅子を出して外気浴を楽しんだりと少しでも屋外で過ごせるよう個別の支援を工夫している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る人には自分で管理してもらい、買い物、受診時には職員と同行し支払を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で出来る人には携帯を所持したり、施設内の電話を使用している。家族、知人との手紙のやり取りも行っている。書くことの難しい人には、家族への年賀状など季節のイベントとして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に気持ちよく利用できるよう心掛けている。構造上、1階のホールは狭いが、テーブルの配置など工夫している。	テーブルの上には桜の小枝が活けられてあり、日ごろから散歩の時に摘んできた花などを飾り季節感を味わう等、居心地良く過ごせている。また、カウンター越しに食事の用意をしている音や香りがして生活感を味わうことができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相席の配慮など孤立感を感じさせないように配慮している。時には職員が入って気を付けるよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みの品物、使い慣れたものを自由に持ってきてもらい、出来るだけ本人が居心地よく過ごせるよう支援している。	入居時には、使い慣れたものや好みのものを持って来て貰えるよう働きかけている。それぞれの居室には家族の写真を飾ったり、使い慣れた椅子を設置されていたりと、落ち着いた雰囲気に整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来ることは自分でやる」を基本に、一人一人の出来ることを把握し、その人に合わせた行動ができるよう支援している。		